

キリン輸送同行記

園長補佐／藤本 智

平成26年5月12日、アミメキリンのコハネの輸送に同行し状態確認と世話をするためキリン担当の大場専門員と私の2人で東京の羽村市動物公園に向かいました。

動物は輸送日当日いきなり輸送箱に入ってくれないので、4月21日に輸送箱を設置し箱への収容訓練を開始していました。コハネはすぐに慣れてくれたようです。

13日朝から羽村市動物公園のスタッフによるコハネの輸送箱への収容作業が始まりました。いつもと違う雰囲気を感じたのか、いつも通りには収容できません。また、初めてせまい箱に閉じ込められて、コハネは少し暴れましたが、無事に輸送箱に収容することができました。

これから約28時間にわたる長旅の始まりです。港に着くまでに1回、船内で6回の状態確認と給餌を行いました。輸送箱の中では、コハネはおおむね落ち着いていました。船内では水で濡らして与えた椎の葉をよく食べ、水分補給をしてくれたので安心しました。天候にも恵まれ、無事にコハネを釧路に連れて来ることができました。



キリン「コハネ」の搬入について

専門員／大場 秀幸



5月14日午後2時、長旅の末ようやく動物園に到着。次は獣舎内へ「コハネ」を入れる作業。半年前にオスの「スカイ」の搬入を経験しているので職員一同準備を整え「スカイ」の時同様に輸送箱をセットし、獣舎に「コハネ」が入れば今回の輸送は無事終了。いざ獣舎のシャッターを開けて「コハネ」を入れるその時ハプニングが…。



獣舎内には事前にオスの「スカイ」を収容し、中仕切りの格子シャッターを下ろして部屋を仕切っていました。しかし、中仕切りシャッターは下まで下ろしても床から90センチ程浮いている構造になっていて、「コハネ」はその隙間に頭を入れ無理やりシャッターを持ち上げて「スカイ」のいる部屋へ。直ぐに中仕切りシャッターを上げて再度「コハネ」を隔離しようとしたのですが、「コハネ」は部屋を行ったり来たり。無理に隔離するのは危険と判断し到着したその日から「スカイ」との同居が始まりました。

あれから1カ月、今では環境にもすっかり馴れ、いつも「スカイ」に付かず離れず一緒にいて仲睦まじい姿を見ることが出来ます。

6月1日には「コハネ」のお嫁入りイベントで2,600名ものお客様にお祝いをして頂きました。赤ちゃん誕生まではまだ4～5年先になりますが、今から首を長くして楽しみに待っていて下さい。

